

大学評価・情報シリーズ 18(通算 439 回)

2009 年 10 月 9 日 (金)

大学・法人情報の共有と活用 ―

日本型 I R 部門の構築と機能強化策 II

大学評価・情報シリーズ 19(通算 442 回)

2009 年 10 月 28 日 (水)

“情報公開”のセカンドステージへ ―

大学 Web サイトの検証 ― 編集力と進化 VI

大学・法人情報の共有と活用 ―

日本型 I R 部門の構築と機能強化策 II

～だれが、どのように／教育改善・質保証、大学評価活動の進化～

- ※ 自己分析に必要なデータ/NIAD-UE による DB と分析/米国の DB 状況と IR 協会の取組み
- ※ [関西学院大] 評価指標 DB の構築と分析/自己点検・評価と中期計画推進管理の高度化
- ※ [立命館大] 教育改革総合指標 (TERI) による FD 包括的評価/人材育成の達成支援
- ※ [九州大] IR 専任者の実践と苦悩/評価情報室と「大学評価コンソーシアム」の取組み

● 講師陣 ●

- 林 隆之 氏 / (独) 大学評価・学位授与機構 評価研究部 准教授
- 井田 正明 氏 / (独) 大学評価・学位授与機構 評価研究部 准教授
- 小野 宏 氏 / 関西学院大学 企画室 (新基本構想担当)・評価情報分析室 主幹
- 沖 裕貴 氏 / 立命館大学 教育開発推進機構 教授
- 高田 英一 氏 / 九州大学 大学評価情報室 准教授

2009 年 10 月 9 日 (金) 剛堂会館 会議室 (東京・麹町)

“情報公開”のセカンドステージへ ―

大学 Web サイトの検証 ― 編集力と進化 VI

～リニューアルの視点/ブログの活用/携帯・YouTube への情報発信～

- ※ 検証・改善の視点/情報発信力強化の仕組み/ワンソースマルチユース/CMS の現状
- ※ [東京農大] 志願者急増～知られざる広報戦略/月間 100 万アクセス/コミュニティサイト
- ※ [明治学院大] ブランディングによるリニューアル/YouTube・ガジェット/Web コミュニケーション
- ※ [中部大] ランキング上位継続の実力/サイトマップの充実が最優先/管理体制と今後の満足度

● 講師陣 ●

- 高橋 真洋 氏 / (株) HARTIN MARTIN 代表取締役社長
- 芳野 公一 氏 / 東京農業大学 入試センター 室長補佐
- 齊藤 一誠 氏 / 明治学院大学 広報室長
- 鈴木 清明 氏 / 中部大学 広報出版室 課長

2009 年 10 月 28 日 (水) 剛堂会館 会議室 (東京・麹町)



[参加要領]

日時 : 大学評価・情報シリーズ 18 「日本型 I R 部門の構築と機能強化策 II」
 2009 年 10 月 9 日 (金) 9:30~16:50
 大学評価・情報シリーズ 19 「大学 Web サイトの検証—編集力と進化 VI」
 2009 年 10 月 28 日 (水) 9:30~16:50
 会場 : 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町) ※両日程、同会場です
 東京都千代田区紀尾井町 3-27 TEL 03-3234-7362
 (東京メトロ有楽町線「麹町駅」1 番出口から徒歩 4 分、JR 中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口から徒歩 10 分)

参加費	ご一名 (資料代を含む)	メディア参加 (資料及び音声 CD 送付)
大学評価・情報シリーズ 18 日本型 I R 部門の構築と機能強化策 II	42,000 円 (消費税込)	43,000 円(送料、消費税込)
大学評価・情報シリーズ 19 大学 Web サイトの検証—編集力と進化 VI	41,000 円 (消費税込)	42,000 円(送料、消費税込)

※参加費の払い戻しはしませんので、申し込まれた方の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ FAX または Email にてご送付ください。

受講証と会場地図を送付しますので必ずご確認ください。

支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 *郵便振替: 00110-8-81660

口座名 (株)地域科学研究会

(なお、ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒ <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/> E-mail: kkj@chiikikagaku-k.co.jp

お申込み・お問合せ



地域科学研究会
 高等教育情報センター

東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106

TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2009 年 月 日

■大学評価・情報シリーズ 18 日本型 I R 部門の構築と機能強化策 II

当日参加 メディア参加

■大学評価・情報シリーズ 19 大学 Web サイトの検証—編集力と進化 VI

当日参加 メディア参加 (□に✓印を入れてください)

勤務先 _____

所在地 〒 _____

TEL _____

FAX _____

連絡部課・担当者 _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

(通信欄) 支払方法(郵便振替・当日払い・銀行振込) 請求書(要 不要)

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます

時間	講 義 項 目
9:30 ～ 11:00	<p>□ データに基づくベンチマークとその支援体制の構築 ～NIAD-UE 大学情報データベースの取組みと米国 I R 協会の機能～ (独) 大学評価・学位授与機構 林 隆之／井田 正明</p> <p>1. データに基づく大学の自己分析能力の向上 (1) 大学評価から見えてくる大学の自己分析の現状と課題 (2) 自己分析に必要なデータ： 大学間比較可能データと目標進捗管理データ (3) 学内データベースの構築と集計データの利活用</p> <p>2. NIAD-UE による大学情報データベース構築 (1) 日本における大学外のデータベースの状況 (2) 大学評価・学位授与機構によるデータベース開発の意図・現状・展望</p> <p>3. 実際のデータ分析からみえること (1) 全国立大学の教育関連データの分析と分野間の傾向差異 (2) 論文データによる研究ポートフォリオの分析</p> <p>4. 米国におけるデータベースの現状とその支援・人材育成 (1) 米国の大学データベース (IPEDS 等) の現状とその分析 (2) 米国 IR 協会 (AIR) によるデータベース利用支援と研修プログラム 〈質疑応答〉</p>
11:10 ～ 12:40	<p>□ [関西学院大] 評価指標データベースを活かした PDCA サイクルの強化 ～自己点検・評価の高度化による質保証の取組み～ 関西学院大学 小野 宏</p> <p>1. 「新たな自己点検・評価」制度の確立 (1) 毎年度の自己点検・評価の全学的実施 (2) 学内第三者評価制度の創設 (3) 評価指標データベースの構築 (4) ウェブによる評価結果の公開 (5) 自己点検・評価統合ウェブシステムへの進化 (6) 次回認証評価に向けて</p> <p>2. 「新基本構想」「新中期計画」の策定 (1) M-V-PDCA サイクルの確立へ (2) 発展的・競争的データの収集 (3) 新中期計画の進捗管理へ</p> <p>3. 自己点検・評価と中期計画進捗管理の高度化 (1) 目標・指標の再検討 (2) パネル調査の実施 (3) 三層型 IR のモデル 〈質疑応答〉</p>
13:40 ～ 15:10	<p>□ [立命館大] 教学に特化した大学評価情報データベースの開発 ～教学改革総合指標 (TERI) による FD の包括的評価と人材育成像の達成支援～ 立命館大学 沖 裕貴</p> <p>1. FD の包括的評価 (1) 中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」にみる FD の定義 (2) 立命館大学の FD の定義と日常的な教育改善活動 (3) 研修の効果検証に用いるカークパトリック・モデルと CMM (Capability Maturity Model) (4) 「成熟度 (Maturity)」で測る FD の効果 (5) 教育改革総合指標 (TERI) の画面イメージ</p> <p>2. 人材育成像 (教育目標) の達成支援 (1) 高等教育の質保証の 3 つの方向性 (2) DP (ディプロマ・ポリシー) と CP (カリキュラム・ポリシー) の確立方策 (3) 自己点検評価報告書の記述の具体 ①人材育成像 (教育目標) ②CM (カリキュラム・マップ)、CT (カリキュラム・ツリー) ③PDCA サイクル ④効果の検証 (4) 教育改革総合指標 (TERI) の画面イメージ 〈質疑応答〉</p>
15:20 ～ 16:50	<p>□ [九州大] 大学情報の共有と活用 ～大学評価情報室の取組みと大学評価コンソーシアム～ 九州大学 高田 英一</p> <p>1. 大学内部における情報収集の現状と課題 2. 大学評価情報システムの開発 3. マネジメント情報プロジェクト 4. 大学評価担当者集会・「大学評価コンソーシアム」 5. 到達点と課題 〈質疑応答〉</p>

時間	講 義 項 目
9:30 〳 11:00	<p>□ CMS とワンソースマルチユース ～Web サイトの本質を考える～ (株) HARTIN MARTIN 高橋 真洋</p> <p>1. HARTIN MARTIN の3つの方法論 (1) 「Google 構造」 (2) 「ワンソースマルチユース」 (3) 「キャンペーンサイト」</p> <p>2. そもそも IT って何？</p> <p>3. CMS (コンテンツマネジメントシステム) の現状</p> <p>4. 動的コンテンツと静的コンテンツ</p> <p>5. ワンソースマルチユース</p> <p>6. 大学の枠を超えて～ワンソースマルチユース展開の可能性～ 〈質疑応答〉</p>
11:10 〳 12:40	<p>□ [東京農大] サイト月間100万アクセスの理由 ～Web 機能を知り、概念を打ち破る～ 東京農業大学 芳野 公一</p> <p>1. 広報担当者として確認しておくこと (1) 『何』を知りたいのか？ やりたいのか？ 持っているのか？ 足りないのか？ 整備すべきか？ (2) 大学が持つ領域・強み ～気がつけば活かせる身近なアイテム (3) チームビルディングの実践 ～意外にバラバラな感性</p> <p>2. なぜWebなのか？ (1) 東京農大コミュニティが月間100万アクセスに…… (2) 学ぶべきサイトとは？ (3) メディアミックス ～他媒体(雑誌、新聞、相談会等)との連携</p> <p>3. 優れたサイト運用の実現は「変化」「継続」「信頼」「パートナー」が重要 (1) ターゲット(受験生)のアイテム、動向を知る (2) ホームページへ情報配信 ～仕組みを考える (3) 発想の転換 ～『作成』から『提供』／『配信』から『つなぐ』 (4) 時代(技術進歩)の流れについていくには</p> <p>4. 今後のWeb展望 (1) 新技術の展開 (2) 東京農大の芳野が考えるサイトとは 〈質疑応答〉</p>
13:40 〳 15:10	<p>□ [明治学院大] ブランディングによるサイトリニューアルと MG Video の活用 ～大学広報とウェブコミュニケーション～ 明治学院大学 齊藤 一誠</p> <p>1. 大学ブランディングの起動と経過 (1) 教育理念に基づく University Identity の確立 (2) 大学ロゴの認知と定着 (3) 広報活動への展開</p> <p>2. 大学ウェブサイトのリニューアル (1) ウェブサイトの設計 (2) ウェブデザインの一新 (3) ウェブサイト活性化の仕組み</p> <p>3. MG Video の活用とアクセサビリティの向上 (1) YouTube との連携 (2) MG Video の活用状況 (3) ランキング上位を目指すチューニング</p> <p>4. 創立150周年プロジェクトとウェブサイト (1) 新サイトの立ち上げ (2) ガジェットの活用 (3) 大学広報とウェブコミュニケーション 〈質疑応答〉</p>
15:20 〳 16:50	<p>□ [中部大] 満足度の高いホームページ運営を目指して ～中部大学ホームページのこれまでとこれから～ 中部大学 鈴木 清明</p> <p>1. 中部大学ホームページの歴史 (1) 手作り・手探りのホームページ開設 ～ 1995年 (2) ホームページを外注したら ～ 2000年 (3) 繰り返されたマイナーチェンジで ～ 2005年</p> <p>2. 現在のホームページに至るまでの経緯・現況と評価 (1) 制作会社をどのように決めたか (2) サイトマップの再構築に大半を (3) 完成後、予想外の反応が……</p> <p>3. ホームページ管理 (1) 役割分担をした管理体制 (2) 担当者をやる気にさせるシステム・体制 (3) 情報の早さを保つために</p> <p>4. 今後目指していること (1) 訪問者が求める情報をタイムリーに提供するために (2) 散在する大学を冠しているサイトをどうまとめていくか (3) 不満を開き出し、満足度を高める 〈質疑応答〉</p>